

## 学長のコラム

### 本学独自の新型コロナウイルス PCR 検査体制の構築について

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。7月に入り、感染者数の増加スピードは4月の第1波を上回り、第2波が到来している。8月20日現在で国内の累計感染者数は6万人に達し、一日当たりの新規感染者数が千人を超えることもまれではない。県内でも、多い日では40人以上の感染者が発生し、累計では400人を超えている。

この様な状況下ではあるが、9月第4週からの後期の授業開始にあたっては、教育の質を担保するために、実習のスムーズな実施とともに出来る限り多くの対面授業を行いたいと考えている。そこで、本学では独自に新型コロナウイルスのPCR検査体制を構築し、学生教職員を対象として、本人の同意のもとに検査を実施することにした。そのメリットとしては、まず学外実習に出向く学生および学外実習に関与する教職員に対し、新型コロナ感染の陰性証明を行うことで、受け入れ施設の信頼を得ることができる。さらに、PCR検査を他の学生や教職員に拡大することで、学内全員の陰性確認が得られれば、学内における実習や講義についても、対面による授業が可能となると考えられる。勿論、検査後の感染やPCR検査自体の精度が決して100%ではない（検体不良も含め20～30%程度の偽陰性例が存在すると言われている）ので、十分な感染防止対策が必須であることは言うまでもない。また、発熱、咳、咽頭痛、鼻汁、味覚・嗅覚障害などコロナ感染を疑う症状が出た場合は、学内で早急に検査を実施して対策をとることが可能となる。早期発見は周囲への感染機会を最小限に留める効果があり、更には感染者自身の早期治療にも有用と考えられる。

幸い、本学医学検査学科には山本講師をはじめ、PCR検査手技に精通した教員が多く在籍している。ご存知の様に、7月から運用を開始した熊本市医師会PCR検査センターの立ち上げに際しては、検査担当者に対して、本学での技術研修や現地での実技指導を行った実績も有している。そこで、危機対策本部会議では川口感染対策WG長を中心に議論を行い、独自検査の導入を決定し、榎原学部長を長とするワーキンググループで具体的な検査体制をご検討戴いた。その結果、現有のPCR検査装置を利用すれば、早ければ今月中にも検査を開始できることとなった。今後、専用のPCR検査装置も導入予定であり、将来的には外部からの検査依頼にも対応できる体制を整備したい。

ウィズ・コロナ時代において、教育の質を保証するためには、このような取り組みが必要不可欠と考えており、本学独自のPCR検査が有効に活用されるよう、是非、皆様方のご理解とご協力をお願いしたい。



山本隆敏講師によって調整中のリアルタイムPCR装置

### 8月・9月・10月の主な行事予定

8/26(水)	FDセミナー（日本高等教育評価機構 事務局長 伊藤 敏弘「第三期認証評価のねらいと概要」）
9/15(火)	リハビリテーション学科合同就職説明会（Web形式）（～9/30）
9/16(水)	銀杏学園理事会
9/17(木)	新レストラン竣工式
9/18(金)	9月卒業式
9/24(木)	後期ガイダンス
9/25(金)	後期授業開始
10/21(水)	動物慰霊祭
10/25(日)	入試（総合型選抜）

### 第1回情報セキュリティ研修会

令和2年7月27日（月）～31（金）に情報セキュリティに関する学内研修会を遠隔で行いました。今回は、例年研修会で講師をしていただいている本学情報セキュリティアドバイザーの菊池先生に資料および問題を作成していただき、AAA上のアンケート機能を利用して実施しました。ディープフェイクやパスワード管理等最近の情報セキュリティ問題が中心となっており、受講問題の難易度も高かった為、受講された方々は、しっかりと資料を読み込まれていたようです。通常とは違う形での開催となりましたが、有意義な研修会となりました。（文責：総務課）

### 『第8回学生選書ツアー』開催！

令和2年7月18日（土）午前10時から1時間半、熊本市内の書店で実施しました。コロナ禍ではありますが、当時は県内新規感染者数0の状況が続いており、マスクを着用して会話をせずに選書ができることから、大学危機対策本部にて開催が認められました。

事前申し込みの4名の学部生、教職員6名で、239冊を選びました。参加者からは、「普段よりも様々な本をみることができました。参加できてよかったです。」「もう少し時間がほしかった。」「また参加したい。」「ホカボングッズをもらうのが楽しみ！」という声が聞かれました。選んだ本は、本人のおすすめコメントを付けて、展示コーナーに配架します。

8月現在、図書館内の滞在は不可ですが、文献検索や図書の貸出はできます。また、遠隔利用サービスとして、\*貸出送付サービスも実施中です。どうぞご利用ください。

（\*詳しくは、AAAのWeb掲示板「図書館」をご覧ください。）（文責：図書館）



## OT/STムービーの制作について

このムービーは経営戦略会議においてOT/ST志願者増方策の一環として制作したもので、7月末より本学のホームページ及びYouTubeチャンネルで公開をしています。OT担当の益満先生、ST担当の池寄先生を中心に企画を進め、その分野に興味を持ってもらう「きっかけ」となることを狙った構成に仕上げられています。ムービーのテーマは「(OT) 夢を支援するイルカと泳いだ女の子」、「(ST) カセットテープに残された最後の声」です。

それぞれの専攻学生の真剣な取り組みが伝わってくる作品ですので、是非、ご覧ください。

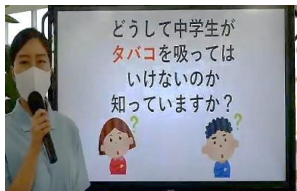
(文責：経営企画室 水野恵介)



## 看護学科4年によるZoom薬物乱用防止教室

例年、看護学科4年の選択科目「学校・産業保健」の一環として、北部中学校の生徒の皆さんを対象とした、学生による薬物乱用防止教室(1年生:たばこ・2年生:アルコール・3年生:薬物)を行っています。本年度は新型コロナウイルス感染症や豪雨による休講のため実施が危ぶまれましたが、Zoomによる講話に変更し、7月21日・28日・30日に無事に行うことができました。初の試みであったため、内容が十分に伝わるか等の心配もありましたが、「とてもわかりやすかった」、「僕は絶対、勧められても断りたいと思った」といった感想をいただき、学生たちも手ごたえを感じたようです。

コロナ禍の厳しい状況の中、ご協力いただいた北部中学校の養護教諭・諸先生方に深く感謝申し上げます。また、最後まで懸命にやり遂げた学生たちを心から誇らしく思います！(文責：看護学科 戸渡洋子)



## 「令和2年度第1回 大学コンソーシアム熊本 障がい学生支援連絡協議会」

令和2年7月27日(月)、熊本大学くすのき会館にて「令和2年度第1回 大学コンソーシアム熊本 障がい学生支援連絡協議会」が開催され、学生相談・修学サポートセンターから2名出席しました。同時に「勉強会」として、本学客員教授 小菌真知子先生が「吃音を持つ学生の理解と支援」というテーマでご講演されました。

吃音は2016年に施行された『障害者差別解消法』に言語障害として含まれています。他人にはわからない程度の軽い症状でも内面で非常に悩んでいる場合がある、慣れない場所やからかい等の多い環境では症状がひどくなる、といった特徴があるとのことでした。

最後に、「吃音を持つ学生には、吃音に理解があり安心して相談できる存在や、発表や面接試験の時間延長等の合理的配慮が必要である。また、支援者は古い誤った知識や先入観にとらわれないこと、本人のペースを受け入れることが大切である」というお話がありました。今後の修学支援に役立つ有意義な勉強会となりました。(文責：学生相談・修学サポートセンター 原口奈美)



(写真：障がい学生支援連絡協議会勉強会報告書より)

## バイオセーフティー・動物実験委員会合同研修会

バイオセーフティー委員会、動物実験委員会の合同研修会を令和2年7月29日(水)13時から1300L講義室で、生物毒素・抗毒素共同研究講座 高橋特命教授により「共同研究講座の研究内容」をテーマとして実施しました。

毒素を実験対象として研究されています高橋特命教授に、毒素の持つ性質、毒素の安全な扱い方を通して正しい知識で科学的な対応ができるようになることを目的としてお話を伺いました。参加された先生方は熱心に聴講されていました。(文責：バイオセーフティー委員長 正木孝幸)



## 私の秘話ヒストリー

今回は学生相談・修学サポートセンターの友清 百千さんに投稿していただきました。

我が家の愛犬「湊」は変わり者です。人が大好きで初対面の方にも、寝転がりお腹を見せて離れません。散歩中、自転車とすれ違う度に追いかけてやむを得ず、それを静止するのに一苦勞。洗濯物の靴下が好きで、自分のゲージの中で守り続けます。そんな時はとても立派な番犬のようです。しかし、おやつと引き換えに靴下は没収となります。さらに犬見知りです。他の犬と出会った時は尻尾を垂れ私の後ろに隠れます。鏡に映る自分の姿にびっくりして吠え続けます。大きないびきと寝言で私の安眠を妨害します。そんな天真爛漫な男の子「湊」との同居生活も早5年。子育てならず、犬育てもなかなか難しいものです…。娘は高校2年生。そろそろ親を旅立つ準備をしているようです。これからは如何に「湊」と仲良く暮らしていくかが私のテーマです。娘と同様、等身大の「湊」を大切にしていきますので、どうぞお手柔らかに……。

